

## 鹿児島大学歯学部における地域貢献

著者	植村 正憲
雑誌名	鹿児島大学歯学部紀要
巻	30
ページ	1-1
発行年	2010
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/17020">http://hdl.handle.net/10232/17020</a>

## 巻頭言

## 鹿児島大学歯学部における地域貢献

歯学部長 植村 正憲

九州には、歯科系大学は国立3校（鹿児島大学、九州大学、長崎大学）、公立1校（福岡県立）、私立1校（福岡歯科大学）の計5校が設置されています。本歯学部以外の4校は、北部九州に集中しており、当学部は南九州地区では沖縄を含め、唯一の歯系大学です。本学部は昭和52年に設置されましたが、歯科医不足や歯科保健水準の向上を目的として、鹿児島・宮崎および沖縄県の関係者の強力な運動で設置されたと記録されています。昨今、大学の社会貢献・地域貢献が叫ばれておりますが、当学部は設置当初から、その役割が期待されていた訳です。

歯系大学の任務は、言うまでもなく教育と研究であり、良質な歯科医師を育成（教育）し、高度な研究を通して未来を提案する、地域の歯科医師と協力して歯科医療水準の向上を図る、また、それらを通して、地域社会の歯科保健の維持・向上を保証することにあると考えます。

当学部は創立当初より、附属病院を中心として鹿児島県および鹿児島県歯科医師会と連携し、三島村（3島）およびトカラ列島（有人7島）の島々に毎年10回近くにおよぶ離島巡回診療を定期的に行ってきました。この診療に長年参加している教員の話では、島民は巡回診療を心待ちにしており大歓迎で迎えてくれ、カリエス率は、きちんとした年1回の定期検査の受診となるためか、むしろ都市部より低いとのこと、当歯学部としては長年の成果として悦ばしい次第です。これまで歯科医師と衛生士（県歯科医師会）で行ってまいりましたが、この数年、学生教育面でも地域医療の重要性が強く要請されるようになり、臨床教育の一部として、現場実地体験教育（離島歯科巡回診療同行実習）として試験的に導入しております。カリキュラム上で参加

には相当の努力が必要であり、また海上交通の危険にもかかわらず、参加した学生も得ることが多く、感想文を読んでもこの実習の評判も良く、学部としても本格導入を模索しております。

このほか、当附属病院は多くの困難な症例（悪性腫瘍、口唇口蓋裂、骨折、外科矯正、病理診断、障害児（者）や睡眠時無呼吸の対応、その他）を開業医さん等から紹介していただき、2次～3次病院として利用していただき、治療に多大の成果をあげております。また、一般診療でも、通常の診療時間が午後5時程度で終了しているのに対し、当附属病院歯科診療科は、1時間30分延長し、午後6時30分までとしており、とくに若年者（学校があるため通常の開院時間では受診できない）の利用の便をはかり、喜ばれております。そのほか当院はホームページの充実に努め、患者さんが利用し易いよう改善を行っております。この様に当院は可能な限り地域との連携し貢献できるよう努力いたしております。

当学部は研究面では、一般歯科材料、インプラント材料、材料と生体の関係、口臭、腫瘍、石灰化（骨化）メカニズム、咀嚼や嚥下関連、味覚関連、病原微生物関連、顔面審美関連、地域保健、人類学的骨解析など臨床および基礎に多方面に渡る研究を行っております。これらは直ちに診療に反映するものでないものもありますが、世界的研究成果をあげるよう教員は努力しております。日常的診療と共に、これら研究を通して、日進月歩の医療・歯科医療の知識・技術を吸収し、診療応用に努め、さらに自己を高め、教育にも反映することで、次世代を担う、また切り開く歯科医師・研究者を育て、地域社会に貢献できる人材を育成する様努めております。